

地域の催しや明るい話題などが
「さ」いましたら、気軽に広報係
までご連絡ください。
☎43・5003(情報課)



子どもたちの歓声が響く



▲咲き誇る藤を見ながら、抹茶とお茶菓子を楽しむ子どもたち

道の駅うずしおまつり2011

道の駅うずしおまつり4月29日、うずしおまつりが行われ



▲タイやカワハギ、アジなどを追いかける子どもたち

ました。同まつりは3年前から子どもたちの思い出作りに毎年開催されています。この日参加した人たちは約2000人。藤の棚の下でのお茶会や魚つかみ大会などが行われまし

ゴーヤのカーテンで節電



▲ゴーヤの苗を受け取る濱田石一会長(左)

老人クラブ連合会

松帆活性化センターで5月10日、ゴーヤの苗が老人クラブ連合会(廣地宏会長)から市内各地区の老人クラブの人たちに配布されました。苗は全部で1100株。ネットにツルを絡ませゴーヤを育てれ

ば、日差しを遮断するグリーンカーテンができます。東日本大震災で節電への関心が高まる中、同連合会の園芸部がエコと健康をテーマにJAあわじ島農協の協力を得てゴーヤの苗を育苗しました。阿那賀丸山老人クラブは同日、丸山地区公民館の花壇に20株の苗を移植し



▲公民館の窓際の花壇にゴーヤを植えるメンバーたち

ました。同クラブの濱田石一会長は、「地区の人たちの交流拠点となる公民館にグリーンカーテンを作り、暑さを和らげ節電に励みたい。そして栄養満点のゴーヤができるのを楽しみにしています。」と話していました。

夏の風物詩「鱧」が旬を迎える

福良漁協で5月22日、旬を迎えた鱧を振舞うイベント「べっぴん鱧まつり」が行われました。このイベントは鱧の良さを知ってもらうため、同漁協と淡路島観光協会が企画。鱧すきの振舞いや瓦の特設コースを使った鱧レース、鱧の競りを体験で

べっぴん鱧まつり

きるチャリティーオークションなどが行われました。前田若男組合長(福良)は、「淡路の鱧は皮がやわらかく骨が細いので食べやすい。また油がのって甘くて美味しい」と淡路産の鱧の良さをPRしていました。



▲鱧すきの振舞い

アートを作り、創造力を広げる



▲作品で何を表現したいのかをアドバイスする清川さん(右)

5月12、13日の2日間、広田小学校で広田出身のアーティスト清川あさみさんが6年生の子どもたちに工作を通して創造力を高める授業を行いました。清川さんは糸や布を使ったアート作品や衣裳、映像などを創作するアーティストとして多方面で活躍して

アーティスト清川あさみさん

川さんが絵を描いた絵本「幸せな王子」のワンシーンを児童たちが糸や布、色折紙を使い表現しました。「みんながそれぞれの意見を出し合い、色々な素材を駆使しながら、豊かな創造力を活かし力を合わせ1つの作品を作っていました。」と笑顔



▲絵本の中に登場する王子とツバメを貼り付け、手芸用でスパンコールを使用し雪を表現する子どもたち

で話す清川さん。授業を受けた高岡萌衣さん(広田)は「いろいろな素材を組み合わせて作品を作るのは初めて。みんなで協力して作るのが楽しかった。」と話していました。番組は6月18日にNHK総合で午前9時30分からの放送予定です。

淡路だんじり唄コンクール

だんじり唄の競演

三原公民館で5月15日、だんじり唄コンクールが開催されました。同コンクールは、だんじり唄の継承、振興を図ろうと平成元年から開催されています。この日参加した人たちは約560人。揃いの法被に拍子木を打ち情緒あふれる演目を唄い上げました。参加した武田憲人さん(北阿万)は「先輩から受け継いできた唄をずっと練習してきた。気持ちを乗せて唄うように心がけた」と話していました。大会結果は11頁を参照ください。



▲武田さんが所属する筒井檀尻保存会。元禄曾我物語を力強く唄い上げました

IBSA世界大会の柔道で優勝

正木健人さん



▲正木さん(中央)の得意技は払腰と大外刈。決勝戦は払腰で優勝を勝ち取りました

北阿万出身の正木健人さん(徳島県立盲学校)が、4月7日にトルコで開かれた国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)第4回世界大会に出場し、柔道男子100kg超級で優勝を果たしました。正木さんは南淡中学校時代から柔道を始め、全国大会で準優勝した経験もあります。初の国際大会出場を果たし、金メダルを獲得した正木さんは、「来年のロンドンで開催されるパラリンピックの出場を目指しさらに頑張りたい」と抱負を語りました。

淡路巡礼でご詠歌を奉納

栄福寺

5月になると淡路島の「風物詩」淡路巡礼が始まります。起源は文明17年(1475)淡路守護職細川成春によって初められたとされます。先祖を供養するため、寺にご詠歌や踊りを奉納していました。この日、白装束を身にまとい栄福寺に集まった巡礼者は約100人。檀家の人たちが訪れた人を接待しました。訪れた多田美智子さん(榎列)は、「巡礼は、ご先祖様の供養と自分の心の修行です。また人との交流も深まる」と話していました。



▲鈴と鉤杖を使いご詠歌を唄う真珠会(榎列)のメンバーたち

インテリアの国際見本市へ出品

デザイナー古田恵介さん



▲香炉に加え、矢がすりやうこの文様を施した小物入れや照明なども計63点の作品を出品します

インテリアライフスタイル展(東京)が開催される6月1~3日に、古田恵介さん(賀集)がインテリア用品を出品します。同展の若手部門で事前審査を通過。8組しか通過できない狭き門です。古田さんが出品するのは主に香炉(縦・横10cm×高さ8.5cm)で、源氏香で利用する独特のデザインが施された淡路瓦製の蓋を用いています。古田さんは「400年の伝統を誇る淡路瓦の文化に魅力を感じ、素材を活かした作品を作り、それぞれに文様を施しました。今回の展示では、次に繋がる世界最大級の見本市(ドイツ)を目指し、審査員に作品をPRしたい」と意気込みを見せました。※源氏香は何種類かの香りを組み合わせ、その香りをかぎ当てる遊びの1つ。源氏香には独特の様子が52通りあり、その芸術性の高さから家紋などにも使用されています